

## 半導体供給不足を教訓を次につなげる

コロナ禍では、テレワークやGIGAスクール構想による特需に加え、自動車産業におけるEVシフトや安全性能の高度化が進みました。その結果、半導体産業では新規参入企業の台頭や既存アプリケーションの需要増加が発生し、半導体の入手性が大きく悪化しました。現在は平常化していますが、半導体メーカーの稼働率低下や長引くリードタイム、国際情勢の不安定化により、再び供給リスクが高まる可能性があります。特に日本市場は世界シェアが低いため、慢性的に半導体の調達が難しい状況です。この背景を踏まえ、「国際情勢」と「日本市場の立ち位置」を正しく理解し、調達や設計を行うことが必要です。

## 19～22年の供給不足から学ぶべきこと

主に4つの要因の認識が必要です。

- ① (日本国内/台湾) 自然災害リスク
- ② (海外) 戦争・紛争による供給停止
- ③ (メーカー) 事業方針転換によるアロケーション変更
- ④ (世界) 日本市場の慢性的低シェア

これらにより、半導体製品の入手性は不安定です。一部汎用デバイスメーカーが在庫整理を終えたとの情報もあり、近い将来、メーカーによっては、再び入手性の悪化や欠品が発生するリスクがあります。

## 日本を取り巻く世界情勢の影響

日本では半導体の入手性が依然として悪く、世界情勢の変化がそのリスクを複雑化させています。最近では、米国の相互関税・追加関税政策が目立っており、特に自動車産業など一部では供給網への影響が懸念されています。一方、中国は「中国製造2025」のもと製造業を強化し、国内実績を背景に海外展開を加速。装置輸出規制により先端技術の進展は鈍化していますが、規制対象外の汎用ICなどでは、国内製造能力が向上し、世界市場でのシェアを拡大。さらに、ロシアとの連携もあり、旧西側諸国以外の地域での受け入れが進み、シェア拡大の可能性が広がっています。

## 日本市場としてはどのような防衛策をとるべき？

日本市場の半導体シェアは低く、アロケーションの優先順位を上げることは困難です。各メーカーの日本拠点の発言力は弱いですが、それでも、FCST運用など、「証拠」にもとづいて交渉することは、依然として有効です。メーカー動向を見極めた戦略的対応が必要で、目安として、「在庫金額の変化」や「IRの見通しコメント」が挙げられます。前者は部品の余剰、後者は見通しや、各社の現状についての把握に役立ちます。

### ■ 本日の登壇者 ■



菱洋エレクトロ株式会社  
営業企画部 企画グループ  
朝比奈 知春 氏

### 世界情勢(地政学的な不安要素)

【米関税関連】…②新たに課された2つの米関税政策

- a) 国・地域別…ベースイン関税+相互関税 (機械品、自動車部品等)
- b) 特定品目対象…追加関税 (自動車、自動車部品)

※相互関税率は「非関税措置」  
一部非関税以外の重要品目  
【日本の場合】  
①自動車(内安・ドル高)  
②自動車部品  
③日本の経済成長(インフレ率の低い)等が大きく影響

※90日の停止期間中に各国が関税中絶に向けて個別交渉中  
※各々の対応は速くも限られる(関税は貿易コスト)

2つの関税のどちらかが「損」か。特定品目以外は「国・地域別」の課税対象に。対象品目追加？

### 米国の“2つの関税政策”

### 世界情勢(地政学的な不安要素)

【中国関連】…中国製造2025の進捗

●2024年最新平準報により「中国製造2025(Made in China 2025)」発表  
●中国製造2025は、半導体、AI、宇宙、量子技術、先端材料、先端製造業、先端サービス業の6つの産業分野を重点的に育成し、世界の中心に位置する中国の競争力を高めることを目的とする。中国製造2025は、中国の産業政策の重要な柱となる。中国製造2025は、中国の産業政策の重要な柱となる。

●China Dream実現→GDP→トップ  
●中国製造2025の進捗  
●China Dream実現へ！  
●中国製造2025の進捗  
●中国製造2025の進捗

半導体は先端分野を中心に国内化遅延、自動車/F/A/AI等は進捗、自国内で完結できることが増加

### “中国製造2025(Made In China 2025)”の進捗

他記事、ウェビナ情報は[こちら](#)



エンジニアよりそうマガジンサイト